

Weekly コラム

平成 28 年 10 月 11 日

〒541-0055 大阪府中央区船場中央 2-1

船場センタービル 4 号館 4 階

船場経済倶楽部

Tel 06-6261-8000

(NPO 法人 SKC 企業振興連盟協議会) Fax 06-6261-6539

人の輪・衆智・繁栄

活動方針



当団体は、異なる業種の経営者が相集い、力を合わせ、自らの研鑽と親睦を通じて、斬新な経営感覚と新たな販売促進を創造して、メンバー同士でより健全な事業所とその事業所のイメージアップを図り、地域社会に貢献できる事業所となることを目的とする。

こんな働き方はどうですか？

世界でも一般的とされる 9 時から 17 時までの 8 時間労働が、仕事中毒を生むだけだと海外でワークスタイルが見直されつつあります。近年、労働時間を短縮することで生産効率が上がるという学者の意見や現場の声が大きくなってきました。そんな中で、ほとんどの社員が本当に仕事をしているのは 1 日約 2～3 時間で、その仕事のために解雇されないように 1 日をかけ、生産性すら誤魔化されている。と言う考えから、労働時間を大幅に見直したのが、Tower PaddleBoards と言う、スタンドアップパドルボードを販売する米企業のオーナー、Stephan Aarstol 氏です。

Aarstol 氏が行ったのは、社員の労働時間を 8 時から 13 時の 5 時間に制限するという事です。もちろん賃金は従来通りですが、その分求める生産性レベルも変わりません。これにより社員はまず、労働時間を無駄に出来ないというプレッシャーを感じ、無駄な休憩や仕事以外の事にかまけることが無くなりました。当然それだけでは従来の生産性レベルに追いつきません。パフォーマンスを上げなければならないというプレッシャーが増し、社員は自分自身が生産的になり、独創的なアイデアを生み出し、競争力をつけるようになりました。その結果、飛躍的な能力の向上に結びつき、8 時間労働時と比較すると、何と生産性を 2 倍にまで高めることに成功しました。

経済協力開発機構の調査によると、日本人の 1 日の勤務時間は平均 9.1 時間、世界 15 位と発表されました。働きすぎと言われる日本人にとっては少し意外な結果に感じられるかもしれませんが、ただ、このデータには日本特有とも言えるサービス残業が含まれていません。サービス残業の時間を含めると日本は 5 位にまで上がると言われています。更に、パートやアルバイトで働く女性等もデータに含まれている事や、有給消化率等が含まれていない事等を差し引くと、やはり世界でも有数の働きすぎる国と言えます。

厚生労働省は 23 日、安倍首相が第 3 次再改造内閣での「最大のチャレンジ」と位置付ける「働き方改革」に対応するため、大幅な組織改編に着手する方針を決めました。その中には、長時間労働削減などのワークバランスの実現や、生産性向上の促進等があります。Aarstol 氏はインタビューで「1 日の労働時間が 5 時間になり、ほとんどの社員は休暇よりも、仕事をする週の方がより充実するようになりました。社員は、時間という自分たちに唯一足りていないものによって、生活の質を上げることに大きくシフトした」と発言しています。安倍首相の「働き方改革」の真髄はここにあるのかもしれないですね。



記事の内容に関するお問い合わせは事務局までご連絡ください。

ウィークリーはメールでの配信も行っております。お手数ですが、「メール希望」・「配信停止希望」と件名にご入力の上、skc-soudan@skc.ne.jp まで空メールをご送信ください。また、FAX ご不要の際は、その旨をお電話にてお申しつけください。